



あさひ台

学 校 報
第 500号
R4. 9. 30
五城目小学校

学校教育目標

夢高く 心たくましく 学び合う五小の子
～ つなぐ ひらく つくる ～

五城目小学校は「大人も通える小学校」です

本校は、町民センターや広域五城目体育館、温水プール等の公共施設群を含む雀館公園エリアにあり、学童保育棟や地域図書館「わーくる」が併設された学校と地域が交わる、これまでの学校の姿を「越える学校」です。これまでも町の豊かな自然や歴史・文化に触れるとともに、町の方々のお世話になり、公共施設も活用させていただきながら「地域とともにある学校づくり」を進めてきました。地域の教育力が子どもたちの成長の助けとなっています。

また、学校は地域活性化の一翼も担っています。「小学校施設整備指針（H31.3 文科省）」には、地域の生涯学習や街づくりの核としての施設（校舎）の整備について記されています。本校改築事業には、地域の教育力をフル活用して学校と地域がつながること、未来の学びを下支えし学校と地域の境界を越えた学びを可能にすること、学校と地域が溶け合う交差点となり全町民が入学する五城目だけの小学校となることなどの願いが反映されています。

このような背景から、五城目町では本校を「みんなの学校～大人も通える小学校～」として、学校教育と社会教育との連携を進め、地域の皆様に学びを提供する取組を始めます。（詳細については、生涯学習課からのパンフレットをご覧ください。）

講座のテーマは、趣味に関するものから地域課題に関するものまで多様です。平日に本校の子どもたちと一緒に学べる講座もあります。この機会にぜひ五城目小学校に足をお運びください。

学校報あさひ台 500号

あさひ台はこのたび500号を迎えました。校長室の本棚にある「学校報あさひ台1号～100号」の後書きには次のように記されています。

昭和58年4月、当時の研究主任、秋山先生の手で第1号が発行された「学校報あさひ台」が、平成2年12月でちょうど100号になりました。この間、毎月1号休みなく定期的に発行され、学校と家庭を結ぶ重要なパイプ役を果たしてきました。（以下省略）

第1号発行から39年間、伊藤義男校長から小玉史男校長まで15名の校長が493号までつないできました。500号を迎え、喜びを感じるとともに責任の大きさを改めて感じています。今後も家庭や地域と学校をつなぐ架け橋として新たな歴史を刻んでまいります。

（校長 島崎徳之）